

【宮前区】

中間報告

1. 研究主題 「自分の健康を守る力を育てる保健教育」 ～興味・関心をもたせる工夫～

2. 主題設定の理由とねらい

宮前区では保健教育を通して、各校の実態から見える健康課題を解決したいという意見が多数挙がった。地区の養護教諭で各学校の健康課題を挙げたところ、習い事やメディアの影響などによる睡眠不足、不注意によるけがの多さや小さな負傷で手当を求める来室の様子、健康診断の結果から見える視力低下の低年齢化などが挙がった。そこで宮前区では、「睡眠」「けが」「目・視力」の3つの健康課題に重点を置き、保健教育の研究を進めていくことにした。

これら3つの健康課題については、小学校段階で正しい知識を得て、適切に意思決定や行動選択を行うことが重要である。また自分の体や健康に興味・関心をもつことで、より確実に自らの健康を守る力が育つと考え、興味・関心をもたせる工夫を念頭に研究を推進することとした。

3. 研究経過

令和元年度 子どもの豊かな心と体を育む養護教諭の取り組み

養護教諭が感じている主観的観点と健康診断結果や来室記録などの客観的観点の両面から、より具体的な健康課題を追究してきた。計測前の保健指導（以下、ミニ保健教育）を中心に各校の実態に合った方法で発達段階別にアプローチ出来るよう計画を立てた。また、学習指導要領の改訂内容やミニ保健教育の位置付け、評価の方法などについて指導主事を招いて学習会を行った。

令和2年度 子どもの豊かな心と体を育む養護教諭の取り組み

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、4月・5月と臨時休業であった。学校再開後、保健教育を中心に各校で出来る限りの実践を行った。実践を進めながら、より児童の興味・関心の程度を捉える方法はないか、各校の児童と養護教諭が同じ形式でまとめや振り返りをする方法がないか話し合った。その後、児童用「ふりかえりカード」、養護教諭用「まとめる形式」、を作成し実践をさらに発展的かつ継続的な取り組みとするために活用することとした。

令和3年度 自分の健康を守る力を育てる保健教育 ～興味・関心をもたせる工夫～

GIGA スクール構想の実現が急速に進み、一人一台 GIGA 端末が整備された。GIGA 端末を活用することで、よりねらいに迫ることが出来るのではないかと考え、実践で活用することを意識して取り組んだ。また「ふりかえりカード」「まとめる形式」を実践後の糧とし、前年度以上に興味・関心を高める工夫が加えられるよう、「睡眠」「けが」「目・視力」各グループで意見交換をし、話し合いを深めた。

(1) 睡眠グループ

「睡眠グループ」では、学習状況調査の生活アンケートの結果や日頃からの子どもたちとのかわりの中で、塾や習い事で睡眠がしっかりとれていない、夜遅くや早朝にゲームをしているなど基本的な生活習慣の乱れを感じていた。特に低学年では就寝時刻の遅い児童が目立ってきている。また、子どもたち自身が睡眠の大切さは理解しているものの、行動にうつすことができない児童も多いと考えられた。そこでそれぞれ自校にあった指導場面で睡眠の正しい知識を理解し、自己管理につながられるよう、取組を進めている。

(2) けがグループ

「けがグループ」では、危険を考えて行動できていない、擦り傷などを負ったときに水で洗わずに来室するケースが多いなどの実態が挙げられ、各校に共通の課題があることが分かった。そこで、グループ共通のねらいを予防と手当の2つに設定した。「危機管理能力を高め、けがの未然防止ができるようになる」という予防の観点と、「正しい知識を理解し、自分で対処ができるようになる」という手当の面である。子どもたちが自分ごととしてけがを捉えられるように、各学校で教材の工夫をした（一例として、紙芝居でよくあるけがのシーンの展開をするものやラミネートフィルムで動かすと手当の方法が分かるものなどである）。活動後、ねらいに迫ることができたかふりかえりカードの見取りを含めて、グループ内で情報共有をし、成果と課題を検討中である。

(3) 目・視力グループ

「目・視力グループ」では、目の大切さや、目に良い生活を送ることの重要性を子どもたちに伝えたいと考えている。近年、子どもたちのメディア機器の使用機会や時間が増えている。視力は、一般に学年が上がるごとに低下する傾向がみられるが、ここ数年の健康診断結果より、視力低下の低年齢化がさらに進んでいることを読み取ることができた。子どもたちは、知識として目に良い生活習慣は分かっているが、実生活ではなかなか実践できていないのではと感じる。実生活の中で、目の健康を意識し、目に良い生活を心掛けるには、目についての知識理解を深め具体的な対処方法を知ることが必要である。そのために子どもたちが興味をもてる教材や理解しやすい授業内容を、学年ごとに系統立てて考え行動実践につながるよう取り組んでいる。また、授業以外の様々な場面からできるアプローチについても考え、継続した取組にできるよう研究を進めている。

4. 今後の課題

各グループでねらいを設定したことで、グループ内の方向性を揃え、研究主題に迫ることができている。今後は、これまでの実践の結果を踏まえ、児童が主体的かつ継続的に取り組んでいける手立てを検討していきたい。また、それぞれのグループから GIGA 端末を活用した実践を提案できるよう、教材研究や情報教育の研鑽を進めていきたい。